



小笠原村立小笠原中学校

学校だより

令和2年6月1日 第3号
小笠原村立小笠原中学校
校長 小野満 賢

学校ホームページ

<http://www.ogachu.que.ne.jp/>



学校フェイスブック

<https://www.facebook.com/ogasawara.jhs>



「ありがとう」

校長 小野満 賢

中学1年生の秋の初めから約2年間、私は新聞配達のアルバイトをした。

夕方は部活動で忙しかったので、朝刊だけの配達であった。きっかけはすでに新聞配達をしていた友だちの勧めだった。彼が担当していたのは市内の比較的住宅密集地で、集合住宅もあり、小一時間もあれば150件ほどの配達が済み、その部数に応じて当時の中学生には十分過ぎるバイト代が入る、という話を聞いたからだ。とは言え、私はお金が欲しかったわけではなかった。表向きは、部活動に向けての朝のトレーニングとして、本当の理由は働き詰めの母を少しでも助けてあげたいと思ったからだ。当時の私は反抗期の真っ只中であつたのにも関わらずそう考えたのが不思議である。

私の育った盛岡は、急峻な奥羽山脈と北上山地に挟まれた盆地にある。稜線の美しさから南部富士と呼ばれ地元の人々に愛されている岩手山を北西に仰ぎ、3本の川が市内を流れる自然豊かなところだった。四季の変化は美しかったが、過ごしやすい季節は長くは続かず、夏はフェーン現象で気温が上がり、冬は「やませ」が吹いて気温が下がるという寒暖差の激しい典型的な内陸性の気候だった。

朝5時に起き自転車をこいで集配所に行くと、自分の担当分の新聞に広告を挟み込み、それを束ねて前かごに入れ、残りを後ろの荷台にくくりつけて出発する。私に割り当てられたのはかなりの郊外だった。家と家の間には相当の距離があり、次の家にとどり着くまでにはかなりの時間自転車をこがなければならない。高低差もあり、強くペダルを踏み込んで山や谷を越える毎日は間違いなくトレーニングにはなったが、80件ほどの配達が1時間では終わらなかった。

氷点下20度近くまで下がった当時の盛岡の冬の朝は布団から出るのが辛かった。道路はアイスバーンになり、下り坂でブレーキをかけようものなら自転車ごと滑って転び、新聞が道路に投げ出されることが何度もあった。しかし路面は凍っているので新聞は濡れもせず、回収をして配達を続けることができた。

問題は雨の日であった。今でこそ新聞は雨模様の日にはビニルで「個包装」され、濡れないようになっているが、その当時は自転車の前かごや後ろの荷台に、上から雨除けのシートをかぶせるだけであった。新聞は濡れた手で触れただけで染みてしまうし、自転車から郵便受けまでの道々でも、郵便受けの口についた雫だけでも濡れてしまう。それでも何とか新聞が濡れないように雨合羽の内側に抱えたり、郵便受けの雨水を手でぬぐってから入れたり工夫はするのだが、そんなことが全く歯が立たない横殴りの雨や嵐の時は、雨水を吸って濡れに濡れた新聞を郵便受けに差し込みながら、申し訳ない気持ちでいっぱいになった。あまりにも濡れた新聞が届けば、お客さんからは当然苦情が来る。その時は集配所の責任者が後で再配達しなければならないことも知っていた。そんなこともあって雨の朝はとにかく憂鬱だった。

その日も朝起きたときから猛烈な雨が降っていた。中学2年生になってすぐの緑の濃い5月のことである。自転車をこいでいるうちに合羽のフードが風でめくりあがり、そこに容赦なく雨が打ち付け、すでに合羽の内側もびしょりと濡れていた。いつもより早く家を出てきたものの、雨のせいでいつもの道のが長く思えてくる。防ぎようもなく濡れてしまう新聞を、とにかく郵便受けの中に押し込んでいった。「今日は苦情の電話がたくさん来るかもしれない」と思うと、ますます足取りが重くなった。

その家は、お屋敷とまではいかないが、刈り込まれた垣根に囲まれており、その半ばに鉄の門扉があった。普段は自転車に乗ったまま門扉に新聞を挟むだけでよい。しかし雨の日は門を開け、庭の突き当たりを右に折れた先の郵便受けに入れることになっていた。

私は自転車の荷台からすでにだいぶ濡れている新聞を取り出し、郵便受けまでの長い距離でそれ以上雨のダメージを受けないように合羽の裾からそれを胸元に入れ、落ちないように合羽の上から左手で押さえた。中腰になって鉄の門の隙間から手を入れ、内側のかんぬきを横にスライドさせようとした。しかしその日に限ってキュルキュルと金属音はすれども何度やってもかんぬきが横に動いてくれない。開かないのなら仕方ない、晴れた日と同じように新聞を門に挟んで先に行ってしまうおう、とも思ったが、水をたっぷり含み、もはや新聞とはいえないものをこの家の人が目にしたら、間違いなく激怒するだろう。何とか

思いとどまってもう一度門の奥に手を伸ばした。雨が当たる音と金属の音だけが聞こえる。時間だけが過ぎていく。それでもかんぬきは動かなかった。腕も足も痺れていく。しかしこのまま帰るわけにはいかない。携帯電話も無い時代である。門を開けて中の郵便受けに入れる他に選択肢はなかった。

ずぶ濡れの中学2年生の私はどれぐらいの間そこにいただろう。軋むかんぬきが動いたのは、何かの拍子に門に体重をかけたときだった。歪んで動かなかったかんぬきが、その時キキキと音がして横に動いた。長い間止まっていた時間がやっと動き出してほっとしたためか、涙が滲んだ。急いで門を開け、庭を進む。突き当たりを右に折れたとき、滲んだ視界の中で、玄関先に傘を差したこの家のご婦人が立っているのが見えた。今まで朝早い時間に一度も会ったことはない。郵便受けに入れるだけならまだしも、直接こんなに濡れた新聞を渡したら怒られるかもしれない。集配所に戻って新しいものを持って来いと言われるかもしれない。いろいろなことが頭をよぎった。でも、迷っている暇はない。合羽の裾から十分に濡れてしまっている新聞を取り出し、その傘の方に差し出した。「すみません。雨で濡れてしまっただけです。」聞こえたかどうか分からないが、ぼそぼそと私は言った。

そのご婦人は新聞が私の合羽の裾から出てきたことに驚いた様子だったが、新聞を受け取ると、それを胸元に抱え、そしてこう言った。

「こんな雨の中大変だったわね。どうもありがとう。」

その言葉が聞こえた瞬間、私の目からは次から次と涙が溢れてきた。気が抜けたというか安心したというか、全身から力が抜けて、初対面のこのご婦人の前でただただ泣いている自分がいた。

その後のことはもう覚えていない。

この時にかけてもらった「ありがとう」の場面を40年以上経った今でも覚えている。ただただ嬉しかった。「ありがとう」はすごい言葉だなと感じた瞬間であった。

感謝の気持ちがあっても、それを言葉にしなければ相手に伝わらない。

新型コロナウイルス感染症のために、多くのことが制限され、我慢を強いられてきた。5月25日に全ての都道府県で緊急事態宣言が解除され、徐々に日常が戻ってくると思うが、ウイルスがゼロになったわけではなく、治療法もワクチンも開発に向けて努力していただいているが、未だ確立しておらず、予断を許さない。関連した書き込み等を見れば「できないこと」へのストレスが増大し、不平や不満、自分とは違う考え方をする人への攻撃が強くなってきているように思う。しかし、「できていること」の多くが、当たり前ではない様々な方の努力に支えられていることを見失ってはいけない。無いほうではなく有るほうに目を向け、いつも感謝の気持ちを忘れず、ありがとうの気持ちを伝えられる人になってほしいと願っている。

かく言う自分は今まできちんと「ありがとう」と言えてきただろうか、改めて振り返ってみると自信がない。しかし、「ありがとう」と言われて嬉しかった経験をもつ人は、きっと「ありがとう」を言うことができ、周りにも広げていくことができるのだろうと思っている。それを踏まえ、本校では、「生徒の身近にいるいい大人の見本」の行動の一つとして、「感謝の気持ちを相手に伝えること」を全教職員で実践している。

「ありがとう」は今や色々な場面で自然に飛び交い、学校全体が温かくとてもいい雰囲気になっている。やはり「ありがとう」は魔法の言葉である。

第1学年紹介

第1学年主任

小学生から中学生になり、学習や生活に対する意欲が感じられます。最初は落ち着いて話を聞くということができなかった時もありましたが、そういう時には仲間からの注意の声が聞こえたり、集団として協力して取り組もうとしたり、という雰囲気が今は感じられます。

学年学級経営方針として、「義務教育にふさわしい学力・判断力・社会性を身に付け、お互いを尊重し合う豊かな心をもった生徒に育てる。」という目標を掲げました。個人としては「すべてのことに一生懸命取り組むことができる。」集団としては「良いことは良いと認め合い、悪いことは悪いと注意し合える。」そんな学年集団を創っていきたいと考えます。日常の中では、



- ① 基本的な生活習慣を確立し、けじめある学校生活と自律した生活を目指す。
- ② 学習に意欲をもたせるとともに、自ら学ぶ姿勢を培う。
- ③ 信頼に基づいた温かい人間関係の中で、状況や相手の立場を考えて行動することで、豊かな心を育む。
- ④ 生徒ひとりひとりが精一杯自分を発揮できて、生き生きと活動できる学年集団を目指す。
- ⑤ 失敗を認め合い、許し合い、考え合うことで、互いに成長してゆける正義の学年を目指す。

ということを重点的に取り組んでいきたいと考えます。思春期となり、これから多くの悩みも抱えられるかと思いますが、家庭と学校が一緒になって、生徒のことを考えていきたいと思っています。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。

第2学年紹介

第2学年主任



今年度はコロナウイルスの影響で例年とは違うスタートとなりました。それでも元気に楽しく過ごすことができていました。また、上級生になり、身体的にも、精神的にも一回り大きくなったように見えます。頼もしさを感じることも出てきました。一方では休業の延長や、各行事の縮小や中止などあり、少し緊張感がないところがあります。部活中止期間も長く、体がなまってしまった人も多そうです。

今年度も「学習に意欲的に取り組み、自主自律できる生徒を育てる。」を学年学級経営方針の第一に掲げています。昨年度も学校だよりで、

「自分のことを適切にコントロールすること」の大切さを書きました。今年は改めて世界や社会が不安定なときだからこそ「自主自律」が必要なのだと思います。非常事態宣言は解除されましたが、数カ月後再度非常事態宣言が発動されることがあるかもしれません。自分で自分の事をどれだけ律することができたか。それが問われる年ではないでしょうか。

1年前に比べると、遥かに成長した2年生ですが、この社会情勢の中では足りないところが多いです。ぜひ、「この非常事態に適応できる社会人なる。そのためにすべきことは・・・」と考えながら日々の生活を送ってほしいと思います。



第3学年紹介

「思い出をつくる1年に」

第3学年主任



日本だけでなく、世界中がコロナウイルス感染症の影響を受け、いつものことがいつも通りにできない緊急事態となりました。そんな中でも、4月16日から学校が始まり、みなさんと一緒に過ごす時間があることに喜びを感じています。

3学年の学年方針は、「社会に貢献するための、基本的な生活習慣と学力を身に付けさせること」を重点とします。家庭学習の習慣化、進路選択等の指導や助言に学年の教員全員で取り組んでいきます。

この1年で中学校生活の幕が下ります。9年間の義務教育の最後の年です。今年の学級目標は「大航海～後悔しない航海を～」です。3年生のみなさんにはこの1年でたくさんの思い出をクラス全員で作って

欲しいと願っています。私たち教員はそのサポートを全力でしていきます。

最後に、保護者の皆様にはいつも深いご理解をいただき、ご協力に感謝しています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



総合的な学習の時間の取組「平和への感謝」

第2学年担当

現在、総合的な学習の時間において、平和学習に取り組んでいます。5月は父島の戦跡について学習し、地域の方を講師にお迎えして夜明山戦跡調査を行いました。事前学習ではお話を伺い、収集された遺留品などを実際に見せていただいて小笠原の戦争の歴史を学びました。

夜明山戦跡調査では、何気なく通る道沿いにも戦跡があることを知り、戦時中の生活を身近に感じ取ることができました。また、夜明山を登り、草木をかき分けた茂みの中から突如として現れる、高角砲や弾薬庫跡などを見学しました。生徒たちはお話じつくりと耳を傾けていました。事後学習では、感想や、これからの願いなどを川柳にしました。

今回、戦時中の小笠原の様子や兵隊さんの生活など知ることができただけでなく、「世界平和は身近にあるゴミを拾うことや、家では靴を揃えたり、家庭を大事にすることから始まる。」というお話もしていただきました。平和について改めて考えることができました。今回の経験を生かして、これからは硫黄島についての学習を進めていきます。



6月の行事予定

1日(月) 生徒会朝礼 安全指導 自転車安全点検
3年小笠原高校訪問 昼清掃
2日(火) 心臓検診
3日(水) 職員会議 昼清掃
4日(木) 避難訓練 小テスト(国) SC勤務
校内研修
5日(金) 尿検査一次 小テスト(英)
8日(月) 学校朝礼 小テスト(数)
9日(火) 尿検査二次
10日(水) 期末考査1日目(理・英・音)
11日(木) 期末考査2日目(国・技家・美)
SC勤務
12日(金) 期末考査3日目(社・数・保体)
15日(月) 部活動再開 1年仮入部始
17日(水) 芝生の日 職員会議
18日(木) 第1回進路説明会 SC勤務
19日(金) 食育講話 内科検診

22日(月) 学校朝礼 お弁当の日 学校公開始
23日(火) テスト反省
24日(水) SC勤務 昼清掃 校内研修
25日(木) SC勤務 昼清掃
各種委員会・中央委員会
26日(金) 開校記念日 役員会 学校公開終
29日(月) 生徒会朝礼 三者面談始
役員会・学級委員会 昼清掃
30日(火) 役員会・学級委員会 昼清掃
体力テスト終

※ 先週の5月30日(土)に実施しました「PTAノロ落とし清掃」では、今年度も多くの保護者・地域の皆様のご協力をいただき、大変ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。